

## タンザニア連合共和国における医療機器保守管理体制の構築と医療人材育成事業

2024年2月6日～2月13日にかけて、タンザニア連合共和国（以下、タンザニア）における医療機器保守管理体制の構築と医療人材育成事業の打ち合わせのため、川崎忠行理事長、瀬上清貴監事、檜村友隆理事、小島萌評議員、前田芽依氏がタンザニアのドドマ大学及びベンジャミンムカパ病院、JICA タンザニア事務所などを訪問し、病院視察や意見交換を行った。

2024/2/9

### 【JICA タンザニア支部】

会談概要：

本プロジェクトの概要及び現状について報告し、意見交換を行った。タンザニア国内での人材育成を行うことは非常に重要であり、本プロジェクトの必要性を確認した。しかし JICA 枠として医療に関するプロジェクトに関しては直接の協力体制が難しいとのことで、どのような方法が妥当であるか検討していくこととなった。

2024/2/9

### 【在タンザニア日本国大使館】

会談概要：

本プロジェクトの進捗状況の報告と、今後の課題について意見交換を行った。日本国大使館としても、本プロジェクトは TICAD 7 においてタンザニア側から支援依頼があり始まったもので、タンザニアの今後を考えても成功させなければならないとの認識であることを確認した。一方でドドマ大学の実習に使用する日本製医療機器をどのように設置するべきかという問題について話し合った。すでに日本から寄付している医療機器を使用する方向で検討しており、直近での輸送は必要がなさそうであるとのことであった。しかし、今後の実習のためには多くの医療機器が必要である。現状として日本からタンザニアへの医療機器の輸送には関税システムが難解であることに加え、入港待ちの船が常にあるため、輸送に時間がかかることが予想される。この問題に対して関係各所に協力を求めながら方法を模索することになった。

2024/2/12

【ドドマ大学】

会談概要：

ドドマ大学副学長、ドドマ大学医学部部長らと、現状共有と今後の方向性について話し合った。直近の課題として、実習に必要な医療機器とカリキュラムの内容について議論した。必要な医療機器に関しては、日本側から必要と思われる機器リストを作成し、これを元にタンザニア側で検討してもらうことになった。また日本国大使館でも検討したように、日本からの輸送に関しては多くの問題があることから、ドドマ大学としてタンザニア政府と協力しながら検討することになった。一方、BME コース卒業後に新しい資格制度を作ることに對しては、確実に必要だと考えていて、より臨床に近い資格を希望しているとのことであった。学科の講義内容や方法等の詳細についてもタンザニア側の希望と日本側の可能な範囲を検討していくことになった。日本側からは BME 学科がスタートする前に、「BME について」周知する必要がある、セミナー等の実施が必要ではないかとの意見があった。これに関して、タンザニア側も必要だと考えており、大学や保健省などに協力を求めながら進めていくことになった。さらにタンザニア保健省ともオンラインでミーティングを行った。これにより、保健省が関係各所へのセミナー周知ならびに本プロジェクトへ協力して頂くこととなった。

このように、今後とも連携を強化しながら本プロジェクトを進めていくことを確認した。



ドドマ大学 外観



全体写真

2024/2/12

【ベンジャミンムカパ病院】

会談概要：

ベンジャミンムカパ病院は、タンザニア国内で最先端の医療を提供している 400 床の病院である。以前はドドマ大学医学部附属病院として機能していた。現在はドドマ大学医学部から医師を派遣しており、協力関係は続いている。当該病院にはアメリカで資格を取得した Clinical Engineer が在籍している。当該病院の取締役は、本プロジェクトへ期待しており、多くの人材が育成されることを希望している、とのことであった。CE は、現場はとにかく人手不足であり、メンテナンスを行うための人材育成が急務であるとのことであった。また本プロジェクトにおける人材育成への期待と共に、日本の CE との交流を希望しているとのことであった。これらの意見を受け、今後の協力を約束した。



全体写真



病院内にて 医学生への講義

〈統括〉

本プロジェクトの進捗状況の確認と今後の課題について、タンザニア関係者との打ち合わせを行うことができた。タンザニア側は人材育成が必要であると実感しており、ドドマ大学における BME コースをスタートすべく、着実に進めていきたいとの考えを再度確認することができた。また資格制度の確立を目指し、財団も協力しながら進めていくことを改めて確認した。一方で実習に使用する医療機器の導入方法や講義方法など、検討しなければいけない課題が多くあることもお互いに認識することができた。

今後はこの課題をどのように解決していくかということも含め、タンザニア側と協力しつつ、関係各所との連携を図りながら本プロジェクトを進めていく予定である。